



文化財保護センターだより

第12号

平成 7 年 3 月 1 日

財団法人 岐阜県文化財保護センター

〒500 岐阜県岐阜市司町 1 (岐阜総合庁舎内)

TEL 058-264-1111(代)
FAX 058-264-0343

●もくじ

堀田城之内遺跡の古墳時代住居跡… 1	トピックス…………… 4
センターの一層の充実を願う… 2	平成 6 年度岐阜県内発掘調査…………… 6
発掘状況…………… 3	センターだより…………… 8



ほり た し ろ の う ち

堀田城之内遺跡の古墳時代住居跡

堀田城之内遺跡は、岐阜市長良堀田にある弥生時代から戦国時代までの複合遺跡です。古墳時代を中心とした住居跡が多数確認されました。

上の写真は、古墳時代前期（4世紀）頃に何らかの原因で焼失した一辺が約7m四方の住居跡です。現在の地表面から約120cm下で検出したこの住居の床面には焼け残った炭化材や焼土が黒く残されていました。また、この炭化材の下からは完形の土器がまとめて出土しました。

センターの一層の充実を願う



飛驒考古学会会長
垣水 富 郎

私たちの長年の念願であった岐阜県文化財保護センターが平成3年に開設され、さらに平成5年にはセンター飛驒出張所が設置されました。

その間、センターの皆様には、増え続ける県下各地の緊急発掘調査に取り組み、炎暑の下での発掘作業をはじめ、膨大な遺物の整理保存・調査報告書の刊行など、根気と体力を要する地道な作業に粘り強い取り組みを続けられ、そのご苦勞はさぞ大変なことであろうと拝察致します。また、各地の調査を通して、考古学研究所の貴重な成果を挙げられている精力的なご活躍に深く敬意を表する次第です。

近年、飛驒地方にも、中部縦貫自動車道・東海北陸自動車道の建設工事をはじめ、多くの地域開発の波が押し寄せています。

「縄文遺跡の宝庫」と言われる飛驒の各地には590余の遺跡が点在し、さらにその他にも、山あいの村々の山麓や川沿いの台地などに、人知れず幾千年の眠りを続けている未知の遺跡も少なくないと思われます。

戦後の圃場整備など各種の開発・改良事業に伴って、多くの緊急発掘調査が実施され、空白であった飛驒地方の先史時代文化の様子が次第に明らかになって参りました。

しかしながら、一方で未調査の貴重な遺跡が跡形もなく滅失した事例も少なくありません。文化を消し去るのに手間はかからないが、文化を形として将来に残すことは誠に難しいと言えます。

飛驒考古学会では、昭和51年の高山市「ツルネ

遺跡」の発掘調査以来、飛驒各地の多くの遺跡の発掘調査に協力して取り組んで参りました。

飛驒地方で今までに実施された遺跡発掘調査は昭和50年代後半の5年間には、わずか6遺跡でしたが、60年代の5年間は15遺跡、平成元年以降の5年間には29遺跡と、大変な増加です。

平成4年春には、高山市を通る中部縦貫自動車道の杭打式が行われ、いよいよ本格的な巨大事業が始まりました。飛驒の開発・近代化促進の契機として、自動車道の早期完成は、地域の大きな期待が込められています。

一方において、建設路線は「飛驒の飛鳥」と言われる高山市近郊の古墳群・古窯跡群・縄文遺跡が密集する丘陵地帯を通過するものであり、十分な期間をかけ、悔いを後世に残さない万全の事前調査の実施が強く望まれます。文化財保護センターはじめ、関係市町村の文化財保護への一層の態勢充実を願うものであります。

さて、センターだより「きずな」各号には、諸先生方の多方面にわたるご提言・ご意見が載せられ、すでに尽くされているところですが、地域の考古学に取り組んでいる考古学の一員として、日頃の感想を述べたいと思います。

(1)文化財保護センターが発掘調査の拠点としてではなく、各地の文化財資料を総合的に保管・整理し、岐阜県の文化財研究推進のセンターとして、長期的展望に立って施設・設備の一層の整備・拡充がなされることを期待します。

(2)各地の開発が進む中で、地域住民の文化財への理解・関心を深めることが重要であります。

常に地域との繋がり、交流を大切にされ、また「こども考古学会」育成など、地域の子どもたちの養成にも力を尽くされているセンターの皆様の日頃のご努力に感謝申し上げます。

以上、誠に要を得ませんが、思いのままを記しました。日夜ご奮闘の皆様のご健勝をお祈りし、センターの一層のご発展を期待いたします。

発掘状況

■堀田城之内遺跡（岐阜市）発掘調査

当遺跡は岐阜市長良堀田にあり、岐阜環状線工事予定地内の同遺跡南地区で、平成8年2月までの予定で発掘調査を進めています。

(1) 古墳時代の集落跡を検出

現在、20軒余りの住居跡を検出しています。これらは、弥生、古墳そして奈良時代と3つの時代のものですが、多くは古墳時代の住居跡と考えられます。古墳時代の住居跡のうち2軒では、床面に炭化した木材や焼土が確認できました。炭化材のほとんどは粉状になっていましたが、保存状態の良い炭化材を観察したところコナラであることがわかりました。この焼失した住居の建築材として用いられていたコナラは、当遺跡の北に連なる山並みに、今でも見ることができます。また炭化材の下から出土した高環や甕などの遺物から、この焼失住居は古墳時代前期に建てられたことがわかりました。

(2) 戦国時代の屋敷区画溝の検出

調査区の中央部で南北に約23m、また調査区南部では東西約8mの溝が検出されました。これらの溝は幅約3m、深さ約1.5mありますが、溝の底付近から意図的に廃棄されたものと考えられる16世紀前半のかわらけ（素焼きの皿）と、すすが付着した人頭大の河原石が数個まとまって確認できました。調査区外の北と西に延びる2本の溝は、その構造や埋もれていた土の層から、同時代の一連のものと考えられ、かなり広い範囲を区画するものと考えられます。

平成4年度に岐阜市教育委員会により調査され、美濃国守護土岐氏の戦国時代の居館跡（枝広館）と推定された城之内遺跡は、当遺跡の西50mに隣接しています。今回確認された溝は、枝広館の周囲にあった屋敷地を区画したのと考えられます。

(3) 主な遺物について

弥生時代、古墳時代そして奈良時代にかけての遺物として、S字状口縁台付甕（弥生時代後期の土器）、甕、壺、高環、環身、環蓋などの土師器や

須恵器が出土しています。これらは住居跡で多く出土しています。その他、紡錘車（糸に撚りかける道具）、製塩土器の底部、土錘、陶丸など多様な遺物が出土しています。

中世の遺物は、平安時代の灰釉陶器、鎌倉時代の山茶碗、戦国時代の陶磁器類です。様々な時代にわたるこれらの遺物はこの地が長良川北岸の集落として、良好な生活の場であったことを示すものと思われま



古墳時代の住居跡における土師器の出土状況

■下巾上遺跡（美濃市）発掘調査

当遺跡は、美濃市松森下巾上地内に位置し、国道156号線の道路拡幅工事に伴い調査を行ってきました。

(1) 中世から近世までの複合遺跡

検出された遺構・遺物などから、当遺跡は鎌倉時代～江戸時代末までの集落跡であることがわかりました。

このうち、中世の遺構面では、25m以上の柵列跡が南北方向に延び、木杭と推定されるものが4本検出されました。また、約10棟の掘立柱建物跡から6本の柱根を検出しました。さらに石組みや木組みの伴わない素掘りの井戸、集石遺構なども確認できました。

江戸時代の遺構面では、土坑、柱穴、集石遺構、井戸などが検出されました。井戸は4基確認され、素掘り（1基）、石組み（1基）、素掘りと石組みを組み合わせたもの（2基）と、構造は異なっ

います。また、これらの井戸からは数多くの植物遺体や昆虫遺体が検出でき、現在分析中です。

(2) 主な遺物について

中世の遺物として、山茶碗、古瀬戸陶器、かわらけなどが出土しました。かわらけは、焼成温度の低い粗製の土器で、祭祀の供え物などに用いられる場合は、使用後に廃棄されることが知られています。当遺跡では、一つの土坑から完形の4枚のかわらけが重なるようにして出土したのもあります。これは何らかの儀式の際に埋納されたものと考えられます。

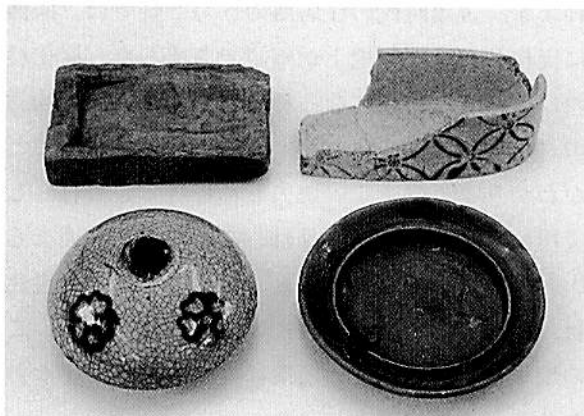
江戸時代の遺物は碗、皿、鉢などで、その大半が瀬戸・美濃産の陶磁器でしたが、肥前(佐賀県)産の磁器も一部出土しました。当時、尾張・美濃地方は日本で有数の窯業生産地であり、当遺跡はその範囲内にありながら、遠く九州からの製品も流入していたことがわかります。

また、その他に髪油壺(手のひらに数滴ずつ油を付けて、髪にぬるための道具)や鬢盥(整髪料を入れ、櫛を浸すための道具)などの化粧具、十能(籠や火鉢などから炭火・灰を他の場所に移す

ための道具)、仏壇に供える仏飯具なども出土しました。

当遺跡は、美濃市内を南北に通る郡上街道に接する位置にあります。今回の調査で、この地が鎌倉時代から現代に至るまで継続して人々が生活した場であることが確認できました。

今後の調査で、出土している中世から近世の各時代の日常用具を分類整理し、化粧具や仏具の普及など、この地での各時代の人々の生活の変化を確認していく予定です。



硯(左上)、鬢盥(右上)、髪油壺(左下)、灯明皿(右下)

トピックス

■県内における弥生時代の石器について

今から約2,400年前、中国大陸から稲作農耕文化が伝播し、わが国でも稲作農耕を基礎にした生活が始まりました。そして、九州地方北部に伝播した稲作技術は、100年も経たない間に東北地方まで達していたことが判明しています。

稲作文化は伝播した当初からかなり水準の高いものであったようですが、それでも当時の人々の生活が、米のみによって成り立っていたとは考えられません。しかし、稲作農耕文化の始まりは、人々や社会のあり方などに大きな変化を与えたことは間違いなく、現在の私たちの生活の基礎を築いたと言っても過言ではありません。

稲作農耕に伴って、多くの新しい生産用具が伝わってきました。今回は、その中の石器について考えてみることにします。

弥生時代の石器を最も特徴づけるものは、大陸系磨製石器群です。これは木製品を生産するための磨製石斧(伐採用の太型蛤刃石斧、加工用の片刃石斧など)や収穫具(石庖丁、石鎌など)に代表される石器で、縄文時代には存在しなかった石器です。これらの大陸系磨製石器群の存在は、その地域において稲作農耕が行われていたかどうかをはかる大きな目安となっていますが、県内の遺跡においてはどうかでしょうか。

県内では、弥生時代に属する遺跡の発掘例はそれほど多くありません。これまでに報告されている牧野小山遺跡・尾崎遺跡・南野遺跡(美濃加茂市)、重竹遺跡・松ヶ洞遺跡・南青柳遺跡(関市)、根本遺跡(多治見市)、宮塚遺跡(各務原市)、赤保木遺跡・葉師野遺跡(高山市)などで出土している石器の組成を見ると、大半の遺跡において縄

文時代から見られた石鏃や打製石斧の占める率の高いことが顕著にわかります。しかし、弥生時代前期に属する宮塚遺跡では太型蛤刃石斧が、弥生時代中期に属する牧野小山遺跡や根本遺跡では太型蛤刃石斧、片刃石斧、磨製石庖丁などが確認されています。また、弥生時代後期に属する尾崎遺跡でも磨製石庖丁(図7)が出土しています。このように、県内においても、弥生時代全般を通じて大陸系磨製石器の導入があったと思われます。ただし、大陸系磨製石器の石器組成全体に占める比率は、どの遺跡でも非常に低いことがわかります。

このように大陸系磨製石器に比べ、縄文時代以来の石鏃や打製石斧の比率が石器組成の中で依然として高いことから、県内における稲作農耕の可能性を否定はしないものの、一般的にはそのウェートは低かったと考えられます。はたしてそうであったのでしょうか。

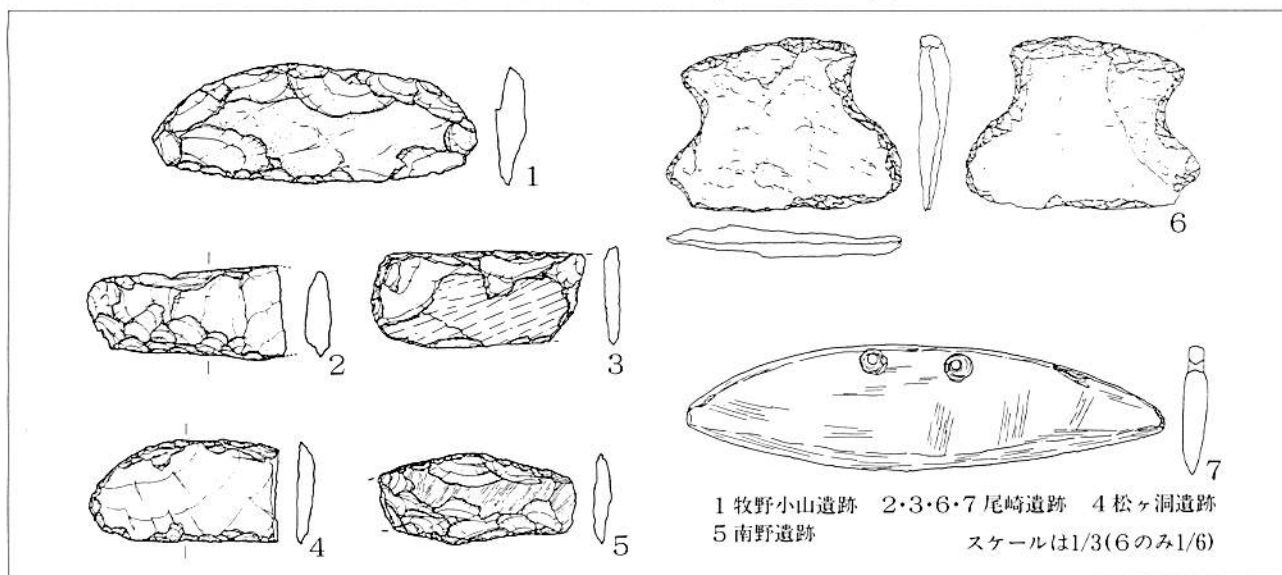
牧野小山遺跡や尾崎遺跡からは形態的には打製石斧に似ているのですが、よく観察すると、長い一辺が刃部となり、対する一辺はやや厚く仕上げられた石器が存在します。(図1~3)この石器は、形態的にはバラエティーに富んでいますが、いずれも素材としては、薄く剥がれるような変成岩が多く利用されています。これらは薄い剥片の一端を刃部としますが、刃部にはあまり調整を加えずに使用したようです。なお、刃部は直線刃、内湾刃があるようです。このような石器の例は、南野

遺跡、重竹遺跡、松ヶ洞遺跡(図4、5)などにも見られます。ただし、これらの石器に残る使用された痕については、今後分析が必要であると考えられますが、いずれも石庖丁あるいは石鎌の機能を持つ石器と考えてよいと思います。

また、尾崎遺跡や根本遺跡から大型直縁刃石器と呼ばれる石器も出土しています(図6)。これは稲ワラの刈り取りや除草に使用したと考えられる石器で、美濃加茂市、関市にも類例があります。

これらの石器の存在は何を意味しているのでしょうか。少し時代は下りますが、群馬県の黒井峯遺跡の例を挙げてみます。黒井峯遺跡は台地上に位置する古墳時代の集落跡です。ここでは、住居群の周辺に畑作耕地が形成されており、その耕作土を分析したところ、稲の葉や茎に含まれるプラントオパールを確認することができ、当地で陸稲栽培が行われていたことがわかりました。

この黒井峯遺跡の場合と直接結びつけて考えるわけにはいきませんが、県内の弥生時代の遺跡の多くが台地や段丘上に位置し、イメージ的には水稲耕作に適さないことや、前述した小型剥片石器、大型直縁刃石器などの存在が穂摘み作業を伴うような生業形態を想起させることなどから、畑作の一種が存在した可能性が考えられます。ただし、これらの石器の使用痕の観察、周辺地域、特に低地部に所在する遺跡との関係などについて、今後考えていく必要があります。



平成6年度岐阜県内埋蔵文化財発掘調査 平成7年1月31日現在

遺跡名(所在)	調査主体(担当者)	区分	時代	主な遺構・遺物など
堀田城之内遺跡 (岐阜市長良堀田)	(財)岐阜県文化財保護センター (市原・各務)	★	弥生～奈良時代 戦国時代	住居跡(弥生時代・古墳時代後期)、戦国時代の屋敷区画溝。古式土師器、須恵器など。発掘調査中
堀田城之内遺跡 (岐阜市長良堀田)	岐阜市教育委員会 (高木 洋)	★	弥生～平安時代 戦国時代	古墳～奈良時代の住居跡、戦国時代の屋敷区画溝。古式土師器、須恵器、越州青磁碗、土師質皿など
船山北古墳群 (各務原市船山)	(財)岐阜県文化財保護センター (飯沼・藤田)	★	古墳時代後期 ～鎌倉時代	群集墳15基のうち7基を調査。須恵器、金環、山茶碗など。発掘調査中
北山古墳群 (各務原市須衛町)	各務原市埋蔵文化財調査センター (戸崎憲一)	☆	古墳時代	北山1・2号墳。2号墳は2段に及ぶ葺石を持ち、石室は横穴式石室で、畿内系の両袖式
上田遺跡 (各務原市鶴沼西町)	各務原市埋蔵文化財調査センター (伊藤 昭)	☆	弥生時代後期	竪穴住居跡、土器廃棄坑など検出。壺型土器、高坏、打製石斧など
西町2号古墳 (各務原市鶴沼西町)	各務原市埋蔵文化財調査センター (伊藤 昭)	☆	中世～近・現代	基壇・石組みを伴う祭祀遺構
今宿遺跡 (大垣市今宿)	(財)岐阜県文化財保護センター (松野・春日井)	★	古墳時代前期、鎌倉時代	水田遺構(古墳前期・鎌倉)。古墳前期の水田遺構から人の足跡検出。鳥形木製品など。発掘調査中
米野遺跡 (大垣市米野町)	大垣市教育委員会 (中井・高田)	☆	古墳時代前期	試掘調査及び本調査。溝を検出。溝内より土師器、弧帯文の彫り込まれた木製品、舟形木製品など
曾根城跡 (大垣市曾根町)	大垣市教育委員会 (鈴木 元)	☆	奈良時代、室町時代	溝、窖窯木～大窯期の製品、土師器、須恵器、漆器、木製品(曲物、下駄、箸)など
大垣城跡 (大垣市郭町)	大垣市教育委員会 (中井・高田)	☆	鎌倉時代 ～江戸時代	室町時代の溝、掘立柱建物跡。大窯期の製品、土師器、磁器片、漆器、瓦、木製品(曲物、下駄)など
荒尾南遺跡 (大垣市桧町)	(財)岐阜県文化財保護センター (小木曾・千藤)	★	弥生時代前期 ～古墳時代前期	弥生前期～古墳前期の方形周溝墓5基や杭列検出。弥生土器、木製品(田下駄・楾)など
荒尾南遺跡 (大垣市桧町)	大垣市教育委員会 (鈴木 元)	☆	弥生時代前期 ～古墳時代前期	弥生土器、楾などの木製品など
荒尾1号古墳 (大垣市荒尾町)	大垣市教育委員会 (中井・高田)	☆	弥生時代 ～奈良時代	竪穴状遺構検出。弥生土器片、須恵器片など
荒尾遺跡 (大垣市荒尾町)	大垣市教育委員会 (中井正幸)	☆		試掘調査 遺構、遺物確認できず
昼飯大塚古墳 (大垣市昼飯町)	大垣市教育委員会 (中井・高田)	☆	古墳時代前期末 ～中期中	古墳の範囲確認調査。周濠の一部検出。埴輪片など。発掘調査中
東町田遺跡 (大垣市昼飯町)	大垣市教育委員会 (鈴木 元)	☆	弥生時代中期 ～古墳時代後期	弥生時代中期の溝、古墳時代前期の方形周溝墓検出。弥生土器、土師器、須恵器など。発掘調査中
舟子古窯跡 (池田町舟子)	池田町教育委員会 (横幕大祐)	☆	奈良時代	灰原の調査。奈良時代前期の瓦を焼成。四重弧文軒平瓦、平瓦、丸瓦、須恵器など
六之井深池遺跡 (池田町六之井)	池田町教育委員会 (横幕大祐)	☆	奈良時代、室町時代	奈良時代の須恵器、土師器など。室町時代の土坑、土器集積遺構、かわらけ、瀬戸美濃陶器など
大河原経塚 (久瀬村東津汲)	久瀬村教育委員会 (小坂宗和)	☆	縄文時代、平安時代	経塚の第2次範囲確認調査。経塚は縄文時代の遺構面の上に構築
上原遺跡 (藤橋村徳山)	(財)岐阜県文化財保護センター (中島・加藤・小谷・鈴木)	★	縄文時代、平安時代	竪穴住居跡1軒、掘立柱建物跡1棟。縄文時代早期～晩期の土器、陶磁器など。発掘調査中(5年目)
寺屋敷遺跡 (藤橋村徳山)	(財)岐阜県文化財保護センター (篠田通弘)	★	旧石器～縄文時代 平安時代	旧石器ブロック、竪穴住居跡1軒、礎石建物跡。ナイフ形石器、縄文土器、灰釉陶器など。発掘調査中
美濃国府跡 (垂井町府中)	垂井町教育委員会 三重大学(八賀 晋)	☆	奈良時代 ～平安時代	国府跡から奈良後期の唐草文様の軒平瓦、平安後期の線刻で樹木の描かれた灰釉陶器など
弥勒寺東遺跡 (関市池尻)	関市教育委員会 (田中弘志)	☆	飛鳥～平安時代 鎌倉～江戸時代	奈良時代の郡衙跡、掘立柱建物群、製鉄遺構。須恵器、鉄滓、灰釉陶器、山茶碗など。発掘調査中
砂行古窯跡 (関市下有知)	関市教育委員会 (篠原英政)	☆	平安時代	灰釉陶器(白瓷)の窯跡 発掘調査中
下市上遺跡 (美濃市松森)	(財)岐阜県文化財保護センター (小野木学)	★	鎌倉時代後半 ～江戸時代	鎌倉～室町時代の柵列や井戸、江戸時代の集石遺構検出。山茶碗、かわらけ、瀬戸美濃陶器など
六反遺跡 (美濃市藪下)	美濃市教育委員会 (高木宏和)	☆		確認調査。長良川旧河道跡
渡来川北遺跡群 (美濃市大矢田)	美濃市教育委員会 (高木宏和)	☆	奈良時代	確認調査。窯業址 平成7年度本調査予定

遺跡名(所在)	調査主体(担当者)	区分	時代	主な遺構・遺物など
長瀬遺跡 (美濃市長瀬)	美濃市教育委員会 (高木宏和)	☆	縄文時代	確認調査。縄文時代中期土器
古城跡 城下町 (美濃市古城跡)	美濃市教育委員会 (高木宏和)	☆	古墳時代、中世	古墳時代後期住居跡25軒、中世土坑45基検出
段遺跡 (美濃市段)	美濃市教育委員会 (高木宏和)	☆	奈良時代 ～平安時代	土師器、須恵器など 平成7年度本調査予定
飛瀬遺跡 (洞戸村飛瀬)	(財)岐阜県文化財保護センター (佐野康雄)	★	縄文時代、中世	竪穴状遺構、土坑。縄文時代草創期・早期の土器 山茶碗、山皿、かわらけなど
池奥遺跡 (美濃加茂市蜂屋町)	美濃加茂市教育委員会 (斎藤基生)	☆		発掘調査中
仲坂遺跡 (美濃加茂市蜂屋町)	美濃加茂市教育委員会 (斎藤基生)	☆		発掘調査中
尾崎遺跡(2次調査) (美濃加茂市蜂屋町)	美濃加茂市教育委員会 (可児光生)	☆	古墳時代	古墳時代の竪穴住居跡5軒検出
岡本山横穴墓 (可児市久々利)	(財)岐阜県文化財保護センター (市原・各務)	★	古墳時代	8基の横穴墓のうち2基を調査。玄室・羨道、工具痕を確認
上野西古墳 (御嵩町美佐野)	御嵩町教育委員会 (若尾要司)	☆	古墳時代	直径約18mの円墳。主体部及び墳丘の大半が破壊された状態にあり、遺構を検出できなかった
大針塩井戸1号古窯跡 (多治見市大針町)	多治見市文化財保護センター (山内伸浩)	☆	平安時代	平安時代末期の山茶碗を焼くための窯。焼成室の床面下に埋設された碗や丸太を検出
大沢7～9号古窯跡 (多治見市北小木町)	多治見市文化財保護センター (桃井 勝)	☆	鎌倉時代 ～室町時代	山茶碗を焼成した窯2基とこれに伴う工房(作業場)跡、近代の炭焼窯3基を確認
大畑西中根3号古窯跡 (多治見市大畑町)	多治見市文化財保護センター (桃井 勝)	☆	室町時代	山茶碗窯の物原の一部を調査。窯体は既に失われていることを確認
小名田窯下1～4号古窯跡 (多治見市小名田)	多治見市文化財保護センター (桃井 勝)	☆	室町時代 ～江戸時代	16世紀後半の大窯1基を検出。大窯期から江戸時代の施釉陶器多数出土。発掘調査中
丸山古窯跡 (土岐市駄知町)	土岐市教育委員会 (加藤真司)	☆	明治時代 ～昭和時代	連房式登窯とそれに伴う作業面。窯体は戦時中の開墾で破壊され位置のみ確認。磁器の皿、鉢など
正家庵寺跡 (恵那市長島町)	恵那市教育委員会 (三宅唯美)	☆	平安時代	法隆寺式の伽藍配置の寺院跡。境内を区画する溝を確認し、境内の規模を確認。三彩陶器片など
中切遺跡 (恵那市笠置町)	恵那市教育委員会 (西部良治)	☆	縄文時代、平安時代	縄文時代後期を主体とした土器及び石刀、石棒など。平安時代の灰釉陶器及び土壘。発掘調査中
桜ノ前遺跡 (高山市名田町)	高山市教育委員会 (田中 彰)	☆	奈良時代	高山の市街地で洪水の砂層に被われた水田跡とあぜを検出。水田跡から木杭を確認
松倉城屋敷跡 (高山市西之一色町)	高山市教育委員会 (田中 彰)	☆	戦国時代	戦国時代の松倉城武家屋敷の敷地を確認
西田遺跡 (丹生川村折敷地)	(財)岐阜県文化財保護センター (本永・谷口)	★	縄文時代	縄文時代早期の集石遺構33基と土器。後晩期の竪穴住居19軒、土偶、耳栓など
牛垣内遺跡 (丹生川村折敷地)	(財)岐阜県文化財保護センター (野村宗作)	★	縄文時代、平安時代	平安時代の住居跡1軒、灰釉陶器(墨書土器)。縄文時代後晩期の土器、石剣、独钴石など
尾崎城跡 (丹生川村町方)	丹生川村教育委員会 (河野典夫)	☆	室町時代	本丸と二の丸をつなぐ土橋と城郭を巡らす帯廊検出。中国製青磁や白磁、常滑、瀬戸などの陶磁器
立石遺跡 (国府町漆垣内)	国府町教育委員会 (岩花秀明)	☆	縄文時代、古墳時代、中世	縄文時代晩期の住居跡・円形に石を配した祭祀場跡と土器・石冠・土偶。古墳時代の住居跡
桜本遺跡 (国府町漆垣内)	国府町教育委員会 (岩花秀明)	☆	古墳時代 ～奈良時代	古墳～奈良時代の住居跡54軒、そのうち、奈良時代の礎石を持つ竪穴住居跡1軒検出。須恵器など
杉崎庵寺跡 (古川町杉崎)	古川町教育委員会 (河合英夫)	☆	白鳳時代 ～平安時代	僧房跡2棟、高床式倉庫跡1棟。排水溝から檜皮、簀木、箸、建築部材など出土
岡前遺跡 (古川町杉崎)	(財)岐阜県文化財保護センター (上嶋善治)	★	縄文時代 奈良～平安時代	竪穴住居跡(縄文7軒・平安1軒)。縄文時代早期・中期の土器、和同開珎、須恵器など
家ノ下遺跡 (宮川村林)	宮川村教育委員会 (林 直樹)	☆	縄文時代	縄文時代晩期前半の土壘墓30基の共同墓地跡。多数の人骨片、御物石器、石刀、石棒など
宮ノ前遺跡 (宮川村西忍)	宮川村教育委員会 (林 直樹)	☆	旧石器時代 ～縄文時代	旧石器時代～縄文時代晩期にかけての文化層を検出。細石刃、日本最古級の土器、昆虫遺体など
江馬氏城館跡 (神岡町殿)	神岡町教育委員会 富山大学(前川要)	☆	中世	城館西に薬研堀跡検出。北と南に箱堀跡。掘った土を堀の縁に盛った土塁跡、掘立柱跡、建物礎石

(注) ★文化財保護法57条の1項による発掘 ☆文化財保護法98条の2項による発掘 資料提供 岐阜県教育委員会文化課

センターだより



■埋蔵文化財発掘調査速報展

当センターでは、12月19日(月)～23日(金)の5日間、今年度、県内8市町村13遺跡で実施しました発掘調査の成果について、埋蔵文化財発掘調査速報展「いにしへの美濃と飛騨」を岐阜総合庁舎で開きました。

わずか5日間の速報展でしたが、1700人以上の熱心な見学者がありました。

会場には、発掘調査を実施した13遺跡それぞれにコーナーを設け、解説パネル、遺構の写真パネルや遺物を展示して発掘状況を紹介しました。主な展示物は、大垣市今宿遺跡の古墳時代の水田跡から検出された人の足跡の航空写真や鳥形木製品、吉城郡古川町岡前遺跡の飛騨地方で初めて出土した「和同開珎」、大野郡丹生川村西田遺跡の土偶15点、揖斐郡藤橋村寺屋敷遺跡の約2万年前の旧石器など、約500点の出土遺物を展示しました。

見学者の方々は、各遺跡の展示コーナーに足を止め、熱心にパネルや出土遺物を見られ、先人の技術のすばらしさや当時の暮らしに思いをはせてみえました。

今回の速報展は、本部のある岐阜総合庁舎の築造70年を記念する「伊奈波大正浪漫祭」の協賛事業として開催しました。来年度以降も多くの皆様に調査経過をお知らせする企画としてこの速報展を計画しております。

■編集後記

このたびの阪神大震災で被災されました皆様方から心よりお見舞申し上げます。

飛騨考古学会会長垣水富郎先生には、お忙しいなか原稿依頼をいたしましたところ快くお引き受けいただき、当センターに対する心温まる激励を賜り誠にありがとうございました。

また、本号トピックスの原稿作成にあたって、関市教育委員会、美濃加茂市教育委員会のご協力をいただきありがとうございました。

さて、今年度も県下各地で発掘調査を進めてきました。その成果を現地説明会・発掘調査速報展・発掘調査報告会・機関誌・マスコミなどを通して、県民の皆様にお知らせしてきました。多くの皆様からご支援いただいたことに感謝しております。今後も文化財保護活動に対してご理解をくださいますようお願いいたします。

●日誌

- 10.24 調査部講演会実施(講師 京都大学原子炉実験室薫科氏)
- 25 愛知県明和高校教諭森氏、荒尾南遺跡指導調査
- 28 大垣市教育委員会文化振興課鈴木氏、荒尾南遺跡視察
- 29 西田遺跡・牛垣内遺跡現地説明会開催(45名)
- 31 大妻女子大学専任講師真家氏、大阪文化財センター江浦・井上氏、今宿遺跡指導調査
- 岐阜大学小井土助教、本部整理所指導調査
- 11. 1 「ふるさとと工事の進捗を見る会」278名、山手宮前遺跡見学
 - 4 高山市教育委員会田中氏、今宿遺跡視察
 - 10 大垣市教育委員会文化振興課鈴木氏、本部来所
 - 11 徳山村の歴史を語る会根尾氏、寺屋敷遺跡見学
 - 12 元名古屋大学教授坂本氏、本部来所
 - 14 岐阜県地域振興整備公団総務課長小川氏、同管理課長清野氏、船山北古墳群視察
 - 16 (財)栃木県文化振興事業団田村氏、本部来所
 - 17 下市上遺跡調査納め式開催
 - 21 岐阜県博物館学芸主事大塚氏、上原・寺屋敷遺跡視察
 - 大妻女子大学専任講師真家氏、今宿遺跡指導調査
 - 岐阜県企画センター理事桑田氏、同専務理事窪田氏他3名、船山北古墳群視察
 - 22 三重大学八賀教授、今宿遺跡・堀田城之内遺跡指導調査
 - 愛知学院大学大参教授、船山北古墳群指導調査
 - 24 大垣市教育委員会文化振興課中井氏、今宿遺跡視察
 - 25 各務原市観光課中野氏他2名、船山北古墳群見学
 - 29 徳山ダム関連発掘調査調査納め式開催
 - 奈文研飛鳥資料館学芸室長工楽氏、今宿遺跡指導調査
- 12. 1 国府整理所開設
 - 2 国府町北村国府町長、同酒井教育長、国府整理所所長古屋市見晴台資料館村木氏、荒尾南遺跡視察
 - 6 関テクノハイランド造成予定地踏査実施
 - 7 愛知県埋蔵文化財センター宮腰氏、穂積整理所来所
 - 8 滋賀県文化財保護協会田中氏、穂積整理所来所
 - 9 藤橋村教育長中川氏・教育委員会野原氏、本部来所
 - 10 今宿遺跡現地説明会開催(504名)
 - 13 道路公団美濃工事事務所庶務課長前平氏他1名、本部来所
 - 14 大野町教育委員会目加田氏、本部来所
 - 15 岐阜県埋蔵文化財専門者会議開催
 - 19～23 「埋蔵文化財発掘調査速報展」開催(1735名)
 - 20 立命館大学講師矢野氏、国府整理所指導調査
 - 22 水資源公団徳山ダム建設所副所長賀来氏他2名、本部来所
 - 23 岐阜総合庁舎築造70年記念「伊奈波大正浪漫祭」開催
- 1.25 岐阜県土地開発公社課長清水氏、本部来所
- 26 福井県埋蔵文化財調査センター工藤氏、福井県金津町教育委員会木下氏、穂積整理所来訪
- 27 石川市教育委員会南氏他2名、大垣市教育委員会文化振興課中井・鈴木氏、穂積整理所来所
- 2. 8 愛知学院大学大参教授、船山北古墳群指導調査
- 14 金沢美術工芸大学小島教授、国府整理所指導調査
- 16～17 全埋文協中部北陸地区コンピューター研究会参加(富山)

